

駅を活用した地域連携施策が世界最高評価を獲得

田沼駅での取り組みが、国際クリケット評議会(ICC)から「Digital Fan Engagement of the Year 2025」世界最優秀賞を受賞

東武鉄道(本社:東京都墨田区)では、一般社団法人日本クリケット協会および佐野市などと連携し、東武佐野線 田沼駅において「クリケット」をテーマとした駅装飾を実施しています。

これは同駅が、日本クリケット協会の本部があり、日本におけるクリケットの聖地とも言える佐野市国際クリケット場の最寄り駅あることから、地元産業である「漆喰」を使用した「クリケット」テーマの装飾を施すことにより、「クリケットのまち佐野」を広く周知するとともに、地元産業の活性化を図ったものです。

このたび、本取り組みが国際的に高く評価され、日本クリケット協会が国際クリケット評議会(ICC)の主催する「ICC Development Awards 2025」において、「Digital Fan Engagement of the Year 2025」の世界最優秀賞受賞することに大きく貢献いたしました。

本賞は、世界各国のクリケット関係機関が実施したファン拡大・競技普及施策の中から、特に優れた取り組みを表彰するものであり、駅という地域の玄関口を活用し、競技への関心喚起と地域の魅力発信を組み合わせた取り組みが高く評価されました。

2026年7月29日には日本クリケット協会とともに佐野市 金子裕市長を表敬訪問し、今回の受賞について報告、金子市長からは「クリケットを通じた地域連携の取り組みを評価していただいたことを大変嬉しく思っている。今後もこの連携を大切に、益々地域を盛り上げていきたい。」との声を頂戴しました。

当社では今後も、沿線自治体やスポーツ団体との連携を通じて、地域活性化や交流人口の拡大に取り組んでまいります。



ICC 表彰式(2026年7月11日、英国・エディンバラ)



金子市長への表敬訪問

◆東武佐野線田沼駅での「クリケット」をテーマとした装飾について

2025年6月7日に、佐野市、佐野商工会議所、佐野市あそび商工会などと連携し、田沼駅駅舎に「クリケット」をテーマに装飾を実施。

地元にも本社を置く日本プラスター株式会社が、漆喰の外壁と地下道の左官工事を施工。



以上